

令和4年度 学校教育自己診断結果について

(1) 「確かな学力」の育成

本校では、「確かな学力」を保障するために、学習への興味・関心を持たせ、「わかる」授業づくりを通して基礎学力の定着、自ら学習する態度を養うこと。「主体的・対話的で深い学び」をめざし、自分で調べ、考え表現する力を育てる授業づくりをめざした。

学習指導に関する設問では、全体的な状況として【①よくあてはまる】が微かに減少した分、【②ややあてはまる】が微かに増加した。肯定的な評価の割合自体は大きく変わらないが、授業を通じて十分な納得感を得ている生徒が減っていると感じる。

生徒アンケートを直近3年分比較して、肯定的評価が微かに減少している項目がいくつかある。具体的には、【質問3、4、6】が挙げられる。また、【質問5：学習の評価については、納得できる】（直近3年分の数値：81.3%→80.5%→80.2%）もほぼ停滞に近い状況にある。生徒の結果にはまだ表れてきてはないが、教員アンケートの【質問11：グループ学習を行うなど、学習形態の工夫・改善を行っている】（直近3年分の数値：65.2%→78.6%→88.9%）や【質問12】、【質問13】など、生徒の評価となかなか一致しない部分から見て、観点別評価への移行も含めて、先生方が授業の実施方法を模索・検討されている苦労が伺える。長引くコロナ禍の影響もあり、グループ学習や実習・実験への制約は続いていることもあり、生徒アンケートの【質問8：授業では体験を通して学ぶ機会がある】において伸び悩んでいる。（直近3年分の数値：66.7%→68.8%→64.2%）

今年度より新設した【質問10：授業の中で、タブレット端末等を活用する機会がある】については、肯定的評価が54.9%となった。Chromebookの活用方法も含めた授業方法の更なる検討に向けて、研修等で我々が学んでいく必要があると考える。

また、【質問7：騒いだり私語したりする生徒はほとんどいない】では、引き続き課題がみられる数値となった。（直近3年分の数値：36.2%→34.9%→35.2%）学習に対して前向きに、当事者意識をもって臨むことが卒業してからも求められる課題解決能力の基盤となる。学びに向かう環境づくりの一環としても授業規律やマナーについての指導を継続して行う必要がある。

3年生のみを対象に行った総合学科に関する【質問46～48】については、前年度の3年生より肯定的評価が大きく減少した。入学当初から制約のある中での高校生活が始まり、思っていたような体験ができなかったり、経験が積み重なったりしてきた部分を生徒なりに考え、この結果につながっていると考える。

(2) 将来の目標に向かって努力する生徒の育成

①基本的な生活習慣の形成を図り、規範意識の醸成、高校生として望ましい態度とマナーの育成するために、遅刻・欠席等の状況改善と授業規律の確立および生徒一人ひとりの課題を踏まえ、理解と納得に基づく生徒指導、②キャリア教育の充実を図り、進路意識を高め自己実現の支援を努めてきた。

生徒指導に関する設問では、生徒アンケートの【質問15～17】について、肯定的評価が減少しており、自由記述にもあったように、指導の一貫性や伝え方、統一感をもって指導にあたるのが今後より一層必要になってくると考える。その為にも日頃から教員間での確認が必要だと考える。生徒の反応が保護者にも伝わっているためか、保護者アンケートの【質問13：先生は、子どものことを理解している】で肯定的評価が減少している。（直近3年分の数値：71.6%→77.9%→68.9%）その一方で、保護者アンケートの【質問11：先生は、子どものまちがった行動をきちんと指導してくれる】（直近3年分の数値：80.0%→76.3%→78.1%）との評価が真逆になっており、生徒理解と生徒指導とは切り離して見られている部分もあると考える。生徒指導に対して生徒や保護者に意図や思いを正しく伝えることの難しさを知ることができる結果となった。

進路指導に関しては、生徒アンケートの【質問 18~21】の全ての項目について少しずつ増加しており、中でもとりわけ、【質問 18：進学や就職についての情報を知らせてくれる】では大きく数字を伸ばした。昨年度からGSで卒業生等にお越しいただき、企業講話や上級学校講話等を取り入れ継続してきたことで、生徒自身に考えてもらえる時間が増え、キャリア教育の拡充ができたと考える。（直近3年分の数値：80.7%→81.8%→87.1%）そうした機会が生徒と教員との話題の1つにもなっていると考える。

教育相談に関しては、生徒のアンケート【質問 22~24】のいずれについても高数値の肯定的評価を継続して挙げている。同様に保護者の反応を見ても、保護者アンケートの【質問 19：学校ははじめについて子どもが困っていることがあれば真剣に対応してくれている】についても肯定的評価が多い。（直近3年分の数値：73.3%→73.1%→77.4%）ただし【質問 14】については昨年度より減少している部分が見られるため、日頃の生徒や保護者とのやりとりを重ねていく必要があると考える。家庭環境や経済状況が厳しさを増す中、教員が生徒の生活に寄り添った関わりも必要とされる。

社会が時代と共に変化し、それに併せて子どもたちに求められていくものが変わってくる中で、時には厳しく、時には寄り添って生徒や保護者と向き合っていくことが今後一層必要になってくると考える。

（3）安全安心で魅力ある学校づくり

自らの課題に向き合い、生徒同士がつながる取組みを推進するために、①生徒の協調性や自主性を育む集団づくり、校内環境の整備や部活動の活性化、②あらゆる教育活動を通じた人権教育や個別支援の必要な生徒の状況改善、③地域とつながる取組み等の推進を行ってきた。

生徒アンケートの【質問 42：伯太高校を選んだ理由】の【④中学校や塾の先生に薦められたから】と【⑤家族や知り合いに薦められた】の数値が伸びている。入学前にいろいろと話を聞いた上で受験・入学してくる生徒が増えていることが伺え、その為もあってか、【質問 12：伯太高校の印象は、入学前とあまり変わらない】について少しずつ肯定的評価が増えている。ただし、【質問 13：自分の学級は楽しい】＝【質問 14：学校に行くのが楽しい】にならず、数値の変化が対照的である。しかし、保護者の反応については保護者アンケートの【質問 5】、【質問 6】、【質問 8】が同じような変化になっているところから見ると、家庭内でのコミュニケーションの様子に様々な状況があることが考えられる。また、家庭から見て学校や教員が子どもの様子を知るために必要な存在になっていることも、保護者アンケートの【質問 23~24】の肯定的評価の減少からも見てとれる。

人権教育に関して、生徒アンケートの【質問 26】、【質問 29】では大きな変化もない状況だが、【質問 30：伯太高校で行っている人権教育は、あなたが学びたいことに応えている】の数値の変化を見ると、GSやLHRでの活動を含め行っていることが、「自分ごと」として捉えることができているように考えられる。今後も講演会などを通して、普遍的なテーマを基本としながらも、生徒の様子や時代の変化に合わせて対応していくことが求められてくる。

学校行事については、コロナ禍の影響・制約を受けながらも予定通り実施することができ、体育祭 81.2%（前年度比+5.6%）、文化祭 88.8%（前年度比+5.8%）、修学旅行 85.5%（2年生、前年度比+6.5%）の肯定的評価を得ることができた。生徒の様子を保護者も実感してくれているようで、保護者アンケートの【質問 26：学校行事は積極的に参加できるよう工夫されている】では肯定的評価を大きく回復することになった。学校行事等から得られる経験や実感は非常に多く、その後の進路実現に向けたアピールポイント作りにも大いに役立ててほしいと考える。